

## 同じ夢をみる

ルカによる福音 1:39-45

そのころ、マリアは出かけて、急いで山里に向かい、ユダの町に行った。そして、ザカリアの家に入ってエリサベトに挨拶した。マリアの挨拶をエリサベトが聞いたとき、その胎内の子がおどった。エリサベトは聖霊に満たされて、声高らかに言った。「あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています。わたしの主のお母さまがわたしのところに来てくださるとは、どういうわけでしょう。あなたの挨拶のお声をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んでおどりました。主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いでしょう。」

### 説教

ユヴァル・ノア・ハラリは著書『サピエンス全史』で人類が生き残ったのはサピエンスだけに認知革命がおきたからと仮説をたてました。わたしは人類だけが同じ夢をみることができた、それはおなじ夢を見る力、共同幻想うみだす能力、つまり神を信じることだ、とハラリの認知革命を理解しています。だから大勢で共同作業（農作業やピラミッド）が可能になったのだとハラリは論説を展開しています。共同幻想という考え方は知っていましたが、ハラリの認知革命という概念でわたしのモヤモヤした考えをスッキリはらすことができたように思います。

もし、みんなバラバラで違う夢、幻想しかもっていないとしたらわたしたちは共同してお祝いすることはできません。クリスマス休戦はなく、オリンピック不参加がニュースになることもないでしょう。わたしたちは同じ夢を見ることができるから12月25日はクリスマス、四年に一度はオリンピック、1月1日はお正月を祝うことができます。

あたりまえのことですが人間イエスがこの世に産まれたのだから誕生した日は

あります。むかしのことなのではっきりした日付はわからないこともあるでしょう。でも、いついつと日を決めておかないと後世に生きるわたしたちには不都合です。だからクリスマスはただの夢やまぼろしではなく、12月25日です。一部のキリスト教会派では1月6日に祝うこともあります。日付にこだわるより「同じ夢」を持っていると信じるのが大切です。

**あなたの挨拶のお声をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んでおどりました。主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです。ルカ 1:44-45**

マリアのお腹のなかの救い主イエス・キリストに出会ったエリザベトのお腹のなかの洗礼者ヨハネは喜びおどった。ルカはこの夢、まぼろしのような胎児の出会いエピソードをクリスマス物語にくわえ、彩りをそえています。

クリスマスを控えたアドベントを、主の平和のうちに過ごすことができますように。そして福音にあずかり、イエス・キリストを信じるのができたわたし達だけではなく、主の日を向かえる世界中の人々が主に祝福されますように。主を信じる人々が胎内に、心の中に宿している同じ夢が、期待に喜び踊る日でありますように。

**主にあっていつも喜べ。重ねて言う、喜べ。主は近づいておられる。フィリピ 4:4b**

-----